２０２６年6月１日

幼保連携型認定こども園　西神戸 YMCA 保育園６月えんだより

６月聖句：「見よ、それは極めて良かった。」　＜創世記１章 31 節＞

早くも５月から「暑熱順化（からだを暑さに慣らすこと）」が必要な気候となっています。これから迎える梅雨の晴れ間は気温・湿度ともに急上昇し、熱中症のリスクが高まります。園では子どもたちにとって外遊びや散歩も大切な時間だからこそ、水分補給や衣服の調節、時間帯の工夫など細心の注意を払い、適切に汗をかく経験も大切にしながら、安全に過ごしてまいります。

新年度から２か月が経ち、子どもたちの成長には目を見張るものがあります。

乳児期の子どもがハイハイやつかまり立ちを覚え、気づけば「瞬間移動の術」を使ったかのように目が離せなくなる……そんな経験をご家庭でもされているのではないでしょうか。

幼児期になると、興味は「自分だけの世界」から「友だち」へと広がります。新しい言葉を覚え、関わりが深まる一方で、そこには当然「思い違い」や「意見の食い違い」も生まれます。

園生活でのケンカやぶつかり合いは、大切な育ちの場です。私たち保育者は「はい、ごめんなさいね」と形だけで終わらせるのではなく、「なぜその気持ちになったのか」「本当は何がしたかったのか」を、その子自身の言葉で表現する時間を大切にしています。お互いに主張し、相手の思いを受け止め、少しずつ「折り合いをつける」経験こそが、これからの社会性を育むステップだからです。先入観を持たず、子どもの生の言葉に耳を傾けることの重要性を日々実感しています。

先日、受講したアンガーマネジメント研修で、深く考えさせられる言葉に出会いました。それは「怒らないこと」を目指すのではなく、「違いを受け入れ、人間関係を良くする」ための学びでした。

私たちはつい、自身の経験から「〇〇であるべき」というマイルールを作ってしまいがちです。しかし「自分の常識は他人の非常識かもしれない」と一歩引き、自分を客観視することからすべてが始まります。これは子育てや、大人同士の関わりでも全く同じではないでしょうか。「～すべき」という色眼鏡を一度外し、目まぐるしく成長していく子どもの姿をありのままに見つめていきたいものです。

今月の聖句は、神さまがこの世界をお造りになり、最後に人間を創られたとき、「見よ、それは極めて良かった」と全肯定してくださった創造物語の一節です。子どもたちは一人ひとり異なる存在で、生まれ持った感性で、大人が見向きもしない葉っぱや石ころ、小さな虫の美しさ・不思議さに気づき、心を躍らせます。つい効率や結果、現実的な見方をしてしまいがちな私たち大人も、子どもたちの瞳を通して、世界にちりばめられた素晴らしさや人と人の間にある温かさに改めて目を向けていきたいと思います。神さまに「良い」とされた一人ひとりの存在を大切にしながら、これからも子どもたちの育ちを共に喜び合っていきたいと願っています。

年主題：「しゅイエスとともに」
年主題聖句：「主があなたと共におられる。」　（ルカによる福音書１章２８節）

６月	乳児（0,1,2 歳児）	幼児（3,4,5 歳児）
月主題	なにかな　なにかな／どれどれ	さわってみよう／考えてみよう
月の願い	・保育者の祈りや賛美につつまれる ・まわりの人や物に目を向け始める ・まわりの自然に五感を使って触れて感じる ・保育者と一緒にさんびかを歌い、賛美に合わせて体を動かす ・まわりの人や物に関心をもち、関わろうとする ・自然との関わりの中で様々な不思議にであう	・季節の移り変わりや出あう自然物を通して、神さまが創られた命の不思議を感じる ・遊びや友だちとの関わりが少しずつ広がり、「さわってみたい」「やってみたい」思いがでてくる中で、不安や葛藤もでてくる ・雨や雲の様子、虫の動き、水・砂・泥など、様々なまわりのものに興味関心をもって五感をつかってあそぶ ・神さまの恵みに感謝し、イエスさまがいつも共にいてくださることに心を留め、嬉しい時も悲しい時も祈る ・疑問に思ったことを考え調べ、友だちや保育者と意見を出し合いながら興味をもったことに取り組む ・雨や雲、雷などといった自然の変化や、梅雨期の特有な自然現象、生き物、植物に目を向け興味や関心を深める
讃美歌	ことりたちは　こども改１０	うたいましょう　こども改 126